

公益財団法人 檜の芽会 御中

伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

【団体の概要】	① 作成日 令和 6年 5月 23日		
②法人・団体名	一般社団法人アシリタント		
②所在地	〒426-0061 静岡県藤枝市田沼1丁目24-8 プレシヤス田沼2階		
④責任者氏名	森洋子	(役職名等)	代表理事
⑤担当者氏名	森洋子	(役職名等)	代表理事

【奨学活動の概要】					
⑥助成交付決定番号	R05-022	⑦助成金額	150万円	⑧申請カテゴリー	DS
⑨奨学活動名	藤枝こども実践型探求教室				
⑩主な実施場所	3rd place D-Lab				

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

小学生～高校生、また児童福祉サービス利用児童を対象とした、地域協働の実践型探求教室

1. 専門職による実践型講座、ものづくり体験学習
2. マルシェ等販売学習
3. 学習課題、学校生活の問題、発達課題を持つ子ども対象の大学生による少人数制学習支援
4. 看護師、保健師、助産師、教員による保護者を対象とした相談会

地域や大学生と共に取り組むことで、一法人では叶えられない企画を立案、実践することができた。今までは接点のなかった地域の他法人や学生や保護者の方々とも協働することで、課題を表面化することができ、その課題に対する対応策を検討する機会を得ることができた。また、机上の学びだけでなく、各専門領域の講師のもと実践的な学びができたことは、とても貴重であり、今後も継続してほしいとのご要望をいただくことができた。そして、子どもと学生、大人が共に取り組む中で、多くの笑顔に出会えたことがこの活動の成果のひとつであった。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

支援対象	延べ人数 (A：人)	平均時間 (B：時間)	活動量 (A x B)	備考・補足
中学生等	64	2	128	児童福祉サービス利用児童も含む
高校生等	12	2	24	卒後、就職または専門学校進学を検討する者
大学生等	78	6	468	学習支援員として
学習支援員等	24	6	144	元高校教員、大学教員含む
その他	30	2	60	小学生(児童福祉サービス利用児童含む)
合 計			824	

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和5年度 伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：藤枝こども実践型探求教室

法人・団体名：一般社団法人アシリタント

作成者 氏名：森 洋子

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

【小学生～高校生、また児童福祉サービス利用児童を対象とした、地域協働の実践型探求教室】

当活動は、学校に通えない生徒や学習課題のある生徒など、様々な事情の子どもたちを受け入れる「大学生団体 実践型探究教室」との連携を通じて、学習方法や内容における生徒（中・高校生）の自主性を尊重した学習支援を行う場を提供することを目的とした。学習支援以外に、子どもや保護者対象の相談室を開催した。また、子どもが地域社会との接点を得られるような施策として、様々な専門職の実践的な体験講座開催、販売学習を行える機会も提供した。また、施設関係者、子どもたちと協同で活動できる子ども食堂の設立を目指し、食に関する学びの講座を開催した。

2. 実施した奨学活動の詳細

①幅広い学習（②社会見学がコロナの影響により開催不可となった為、招く講師の数を増やした）

- ・活動内容詳細：発酵食の職人、和菓子職人、ハンドメイド作家、マジシャン等を招いて、ものづくり体験・講義を開催。小学生～高校生が参加した。
 - ・発酵食（合計3回 延人数18名）、和菓子（合計3回 延人数15名）、ハンドメイド（合計4回 延人数25名）、マジシャン（合計2回 延人数42名）
 - ・周知方法は、地域へのポスティング、子ども支援事業所との連携を主体とした。
 - ・学生ボランティア、保護者ボランティア、近隣の児童福祉サービス職員と連携。
 - ・大学生による学習指導員がサポートとして参加。
 - ・今後、地域と子どもの協同で「子ども食堂」設立を計画、また事前の子どもや保護者へのアンケートの結果、食べ物に関する講座開催の希望が多く、講座だけではなく、マルシェ開催等、多岐にわたり食品関連の活動が増えることを想定して、以下の機材を購入させていただいた。冷蔵庫、オーブンレンジ、ラジエントヒーター。
- また、石鹸づくりやハンドメイドの講座などの必要物品としてハンドメイド用のレンジ、掃除機を購入させていただいた。ハンドメイド製作の材料（キャンドル・石鹸）購入費用。

【和菓子講座】



【ハンドメイド】



【発酵食講座】





【マジシャン先生】



【ハンドメイド】



【購入物品】

③販売学習

・法人主催のマルシェの中の1店舗として、市内大学と隣市大学の学生が中心となり9月は地場野菜やスイーツを、3月には地域の駄菓子屋さんの協力を得て駄菓子を販売した。店舗の企画時より、協力施設である児童福祉サービス職員が参加。3月は、同施設利用の小学生～中学生が店員さんとして参加。また、和菓子作り、アイシング、チョコレート作りにも挑戦した。

・9月：大学生15名、3月：大学生15名、中学生5名、小学生10名

・周知方法は、地域へのポスティング、市役所等行政機関・子育て支援関連の施設へ訪問し、資料をもとに説明し案内を掲示していただいた。

・保護者ボランティア、児童福祉サービス職員、マルシェ出店者と連携。

・大学生による学習指導員が中心となり実施した。マルシェ出店計画から学生が主体となり、子ども達が安全に楽しく販売学習を実施できるよう準備～実施まで担った。

・駄菓子、印刷物作成、事務用品購入。



【マルシェ販売学習】

④対話学習は⑤の少人数制学習の一部として実施

⑤少人数制学習

実践型探究教室の大学生を中心に、学習支援を受ける子ども（主に中学生）及び親への対面にて困りごとの相談や学習支援を実施した。子どもは大学生と面談し、必要に応じて保健師、看護師、助産師が面談した。親の相談は保健師、看護師が対応した。子どもの相談内容は、「学校にいけない」「中学校での友人関係」「生理の影響による精神面の問題」「SNSのトラブル」「進学について」等が寄せられた。親の相談内容は、子どもの相談内容と同様のもの以外に、「思春期の子どもへの対応」「子どもの不定愁訴への対応」「親の介護と子育ての両立」等が寄せられた。双方の相談内容から、視点は違えど、同様の内容で悩み、その悩みが学習や生活、親子関係に影響を及ぼしていることが明らかとなった。また、学生スタッフ、学習支援指導員による学習指導を行った。（9月2回、10月2回、11月2回、3月2回）学習時間のカリキュラムのひとつとして、生徒同士で対話する機会を設けた。所要時間20分/回程度とした。

・相談件数：10月中学生3名、保護者5名、11月中学生4名、保護者4名、12月中学生3名、保護者4名

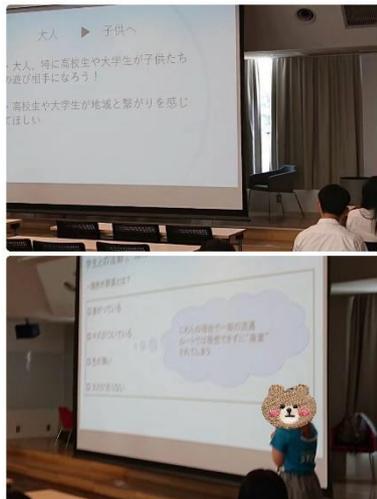
学習支援：中学生 毎月延人数 9月12名、10月10名、11月12名

・周知方法は、地域へのポスティング、子ども支援事業所との連携を主体とした。看護師、保健師、助産師の協力を得た。

・相談については看護師2名、保健師1名、助産師1名と連携。

・大学生による学習指導員、元高校教員、大学教員が指導に当たった。

・絵画用アクリル絵の具、キャンバス等絵画関連物品



【学習支援勉強会】



【自由に描くポーリングアート】



【少人数制学習と相談会】

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

得られたもの：一法人では叶えられない企画を立案、実装できた。今までは接点のなかった地域の他法人や学生や保護者の方々と協働することで、地域の課題を表面化することができ、その課題に対する対応策を検討する機会を得ることができた。また、参加してくださった子どもたちの笑顔はもちろんのこと、保護者の方々が、私共のような他者に心を開き、悩みなどを口にしてくださる機会が増えたことが何よりであったと思う。

児童福祉サービスとの連携により、障がいを持つ児童の学習課題について、大学生と語り合い、自分たちに何ができるかを検討する機会を得ることができた。健常児との相違や、どちらにも共通である登校拒否、学習意欲低下、集中力低下等についてグループワークを実施し、指導やマルシェでの関りに繋ぐことができた。

反省点：学生主体の学習サポート活動が、学生の本来の自分たちの大学生活等により、十分とならな

かった。大学生を中心とした学生主体運営、学生主体のコンテンツに対する課題が残った。コンテンツのボリュームの変更により、各専門領域の講師の講座を増やした。結果として、子ども達や保護者の方々から喜びの声をいただいたが、講師への謝礼の占める割合が高くなってしまった。突然の計画変更であったこともあり、講師陣にボランティアとしての参加をお願いすることが難しかった。

今後について：今回は檜の芽会様のお力を借り、実践に繋がられた企画が多かったが、今後は、予算組み含め、当法人と協働してくださる地元企業や機関との連携を深め、地域の取り組みへと発展させていきたい。これに際し、今回の活動にも多大な協力をくださった児童福祉サービスの管理者の方々、行政、地域企業との懸け橋になってくださるとのお話をいただき、今後お繋ぎいただくこととなった。本活動の結果と反省点を踏まえ、次期は、開催する企画を厳選し、特色を出していきたいと考えている。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

法人譲渡を受けて間もない本活動であり、正解がわからない手探りでの取り組みであった。檜の芽会様のサポート決定後、本格的に計画を実装に向けて動き出した頃にコンテンツの内容やボリュームの変更を行ったこともあり、担当者として必要以上に責任を感じてしまい、活動を楽しめない時期が続いた。しかし、マルシェでの販売企画に取り組む大学生たちがささいなことにも笑顔で反応し、皆で楽しんで準備をしている様子を見守るうちに、企画が大幅に変更になったわけではない、今できることをやってみよう！と気持ちを切り替えることができた。そこからは、協働してくださる方々との意見交換、準備に積極的になれた。

実施された活動を思い返すと、子どもや地域の大人たちの笑顔がたくさん浮かぶ。笑顔と一緒に「楽しかった」「やってよかった！」「またこの企画やりたいですね！」「いろんな人と知り合えた」など、たくさんの言葉が行き交ったコンテンツばかりであった。協働することの意味、意義を実感できた日々であった。この活動の土台を作ってくくださった檜の芽会の皆さまに心から感謝申し上げたい。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

活動間もない法人の力だけでは成し得ない活動であった。財団によるご支援、地域の方々、専門職といった多数のサポートがあって成立した取り組みであった。今後、継続を検討する為には、予算・人員配置を含め、実装に向けた骨組みの整備と強化を求めたい。

本活動は総体的にみて一定の効果と結果を得たと思われるが、当初の主軸でもあった大学生主体コンテンツの縮小には課題が残る。今回の縮小は、法人と学生のコラボレーションによるパワーバランス、学生本来の学業やアルバイト活動等との配分が影響したと考える。今後、大学生主体の活動を再構築するのであれば、法人は学生のバックアップに徹することを検討したい。そういった点で、マルシェにおける大学生主体の店舗運営は、大学生による子どもたちとのコラボ企画として成功したと言えるのではないだろうか。

今後の取り組みについて、大学生との協働については、主体となる大学生団体とのミーティングの機会を十分持つことが必須であろう。その他、地域の企業、ボランティアとの協働は、本活動で得られた人脈をもとに拡大させてほしい。（隣市大学 教育学部 教授 A 氏）